



## 就職フェア雑感

理事 谷 徹



今年は例年行われている就職フェアが拡大され、秋葉原会場、立川会場に続き東京国際フォーラムでも開催されました。雇用対策部担当理事として精力的に関わらせて頂きました。延べにして1200余名もの学生諸君が来場され、精力的に出展法人のブースに足を運ばれ、真摯に保育士の仕事に向き合おうとする姿が印象的でした。出展ブースの中にはビジネスライクに学生諸君と接し、些か品位にかける法人もいた事も、物見遊山で来場する学生さんもいた事も確かです。その少数の印象が強いがために一般的な企業主催の就職フェアのようにならないように、という実行委員のみなさんの尽力がありました。確かに現在、どこの法人も喉から手が出るほど保育士をはじめ保育園に従事する職員を欲しています。かく言う私自身も職員の確保に眠れないほど思い悩む事があります。武士は喰わねどとは申しますが、日本のフォーマルな保育園の中核であるこの団体の会員園のみなさんには品格を失念されぬようにして頂きたいと思いました。

先日、ノーベル賞の発表があり、本年の第一号日本人として、京都大学高等研究員特別教授である本庶 佑ほんじょ たすく氏が医学生理学賞を受賞されました。当然年長の方ですので無礼を承知で書かせていただければ、何とも人懐っこい笑顔が印象的でありながら、インタビューのひと言ひと言がひとつの事を成し得た方の重みに感じました。その中でも印象的だったのが座右の銘である「有志竟成」という後漢書の一説です。誰にでも、どのような仕事、学問においても必要な言葉のように思えて私には感慨深く思えました。「志ある者は事竟に成る」、志を失わなければ必ず成し遂げる事ができる、固い信念をもって事にあたれば必ず実現できる。些か頑固オヤジの小言のように聞こえますが、我々の志はそんな頑固で一途な先人たちの思いを継承して、今の世の中で事業を引き継いでいるのではないのでしょうか。

事業を成立するためには、人的にも金銭的にも財力は必要です。金銭的に枯渇したとき先人たちは、その事業の必要性を訴え続け金銭的な補助を勝ち取ってきました。過去にも人材が不足した時は全国を行脚し、獲得してきました。その時代と現在の状況は違うものだとしても、事を成すとき志を見失った獲得をすれば、それは先人たちから引き継いだ志とは違う、ただのビジネスになってしまうのではないのでしょうか。しかもそのビジネス感を実際の営利目的企業の部分的なまねごとで、表面上は清濁入り混じったビジネスマン風な手法で関わりを見せますが、実態はいかがなものでしょうか。実際のビジネスの世界ではある程度法律は関係なくなります。コンプライアンスに抵触しないというのが表向きですが、実際の企業立保育所の人材採用はプレゼンがうまいという事や、ディベートがうまいといったテクニカルな事以上に、企業の命令下で収益に結び付くために結果が出れば、それはその企業にとって正義であるという事です。そのミニマムな正義はビジネスの世界では法律をも凌駕する場合があります。まさに金銭的ばらまき政治では解決できない、人財の枯渇している現代では、ただ人員を集めるだけの作業において企業の募集能力には敵わないところもあるかもしれません。

大々的に執り行われた今年の就職フェアにおいて、多くの学生諸君が様々なブースに足を止め着座し対面し、その保育園の先生方と真剣に話す姿がありました。そこには先人たちから受け継いだ志をもつ「有志竟成」の高邁な精神をもつ保育園の先生方の姿がありました。我々が考える人材募集の手法は古臭いものなのかもしれません。毎年少しずつ良くしていこうとする努力をしています。手法として株式会社のようなものも導入していく事もあるでしょう。ただ、置き去りにできないそれぞれの保育園が持ち続ける志を見失わずにいる事の難しさと、それこそが私たちのアイデンティティーそのものだという事を判らされたフェアだったように感じます。